

災害別の災害への備え 地震1

地震 家の中

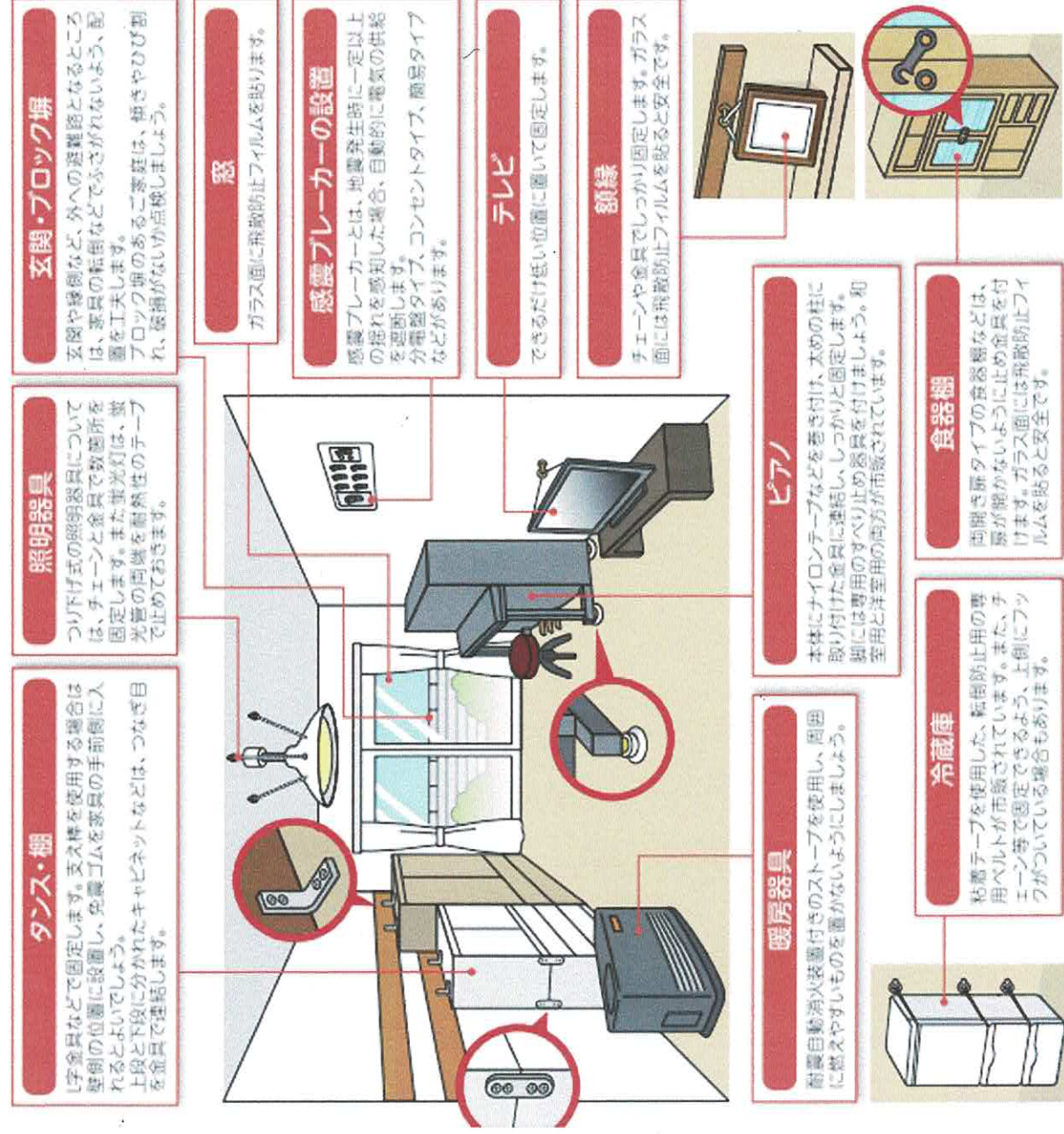
台風に対しては事前に対策ができ、安全な場所に移動する余裕があります。しかし、地震は突然やってきます。それは寝ているときかもしれません。死に直結する災害です。

もっとも大事なことは、**命を守る家に住む**ことです。家の耐震化が一番ですが、多くのお金と時間がかかりますし、工事中は別の所に住むことになります。家具などの耐震化にかけるお金と時間・手間は、家の耐震化に比べれば、桁違いに少なく済みます。地震保険はあります。が、「命を守る保険」はありません。自らが行動し、「命を守る」備えをしていくことが大切です。

減らす:家具を減らす 今使っているのか、必要なのか考えてみましょう。

移動する:位置を変える 万が一倒れたら危険だったり出入り口をふさいだりする場所から、別の場所に移すことができなにか。また、タンスなどの収納品は重い物を下に移動する。

固定する:家電・家具を固定する 腰より高い家具や家電は全て固定する。



災害別の災害への備え 地震2

地震 家の周り

家の周りの安全対策は、地震だけでなく、台風の時にも必要なことです。倒れたり、飛んだりするようなことがあれば、隣や通行人に迷惑をかけることにもつながります。

定期的に、あるいは台風が近づいたときには安全点検を行いましょう。そして家の中と同じように、「**減らす・移動する・固定する**」。またできるかぎり補修しましょう。

屋根

屋根瓦がズレたり、アンテナが不安定になっていたら補強しましょう。

雨どい

継ぎ目が外れていたら修繕を、落ち葉や土砂が詰まっていたら清掃しましょう。

ブロック塀

ひび割れ、傾き、鉄筋の錆びなど老朽化していたら修理しましょう。

ベランダ

物干し、植木鉢、エアコンの室外機などはしっかり固定。マンションは非常脱出口のまわりに物を置かないようにしましょう。

玄関まわり

自転車や植木鉢など出入りの支障になる物を置かないようにしましょう。

プロパンガス

しっかりとした土台の上に置き、倒れないよう鎖で壁に固定しましょう。

ブロック塀

高さ1.2m以上の場合は「控壁」を設けます。

壁

「合板」や「筋交い」で補強します。

基礎

ひび割れなどがあれば樹脂の注入などで補修します。

柱や筋交いの 接合部分





柱や筋交いの両端を「接合金具」で補強します。

万が一、家や家財に被害があった場合は、写真を撮っておきましょう。保険金請求のために必要になります。家全体や壊れた部分などを、角度を変えて2、3枚撮っておきましょう。写真を撮るのは、余震が収まり、家の安全が確認されてからにしましょう。

災害別の災害への備え 地震3

地震 発生時の正しい行動

どんな場所においても、地震にあつたらまずは身の安全を守る行動を。実際に揺れている間は、ほとんど身動きできません。それでも日頃から意識していると、危険を避ける行動ができるものです。起震車（震度6や7を体験できる車）に乗る機会があれば、是非体験してみましょう。また、弱い地震のときにも、震度6や7のときのように行動してみましょう。

揺れている最中	揺れが収まったら
<p>自宅・オフィス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンロのそばや食器棚から離れる。 ● タンス、本棚など、倒れてくるものや重いものから離れる。 ● 窓ガラスからできるだけ離れて柱などにつかまる。 ● 机の下などにもぐり、床にお尻をしっかりと付け、机の脚を両手で握る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 火の始末をし、ガスの元栓を締める。 ● 避難する場合は必ず電気のブレーカーを落とす。 ● 揺れが小さいうちに、窓やドアを開けて出口を確保する。揺れが大きい場合は身の安全を優先する。 ● 原則、慌てて外に飛び出さない。 <small>※ただし、古い建物の場合は倒壊する恐れもあるので、避難も考える。</small> <p>ブレーカーを落とすのは「電気火災」と呼ばれる2種類の火災を防ぐためです。1つは地震で停電になり、その後電気が通ることで「通電火災」になるのを防ぐためです。もう1つは、地震の揺れに伴う電気製品からの出火を防ぐためです。表佐地区の多くの家庭では「スイッチ手断ブレーカー」という、地震のとき、電源を自動的に切る感震ブレーカーを設置しています。</p> 
<p>運転中</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ハザードランプをつけてゆっくり減速、車を道路の左に寄せる。 ● 橋の上やトンネルは崩れる可能性があるので注意が必要。出口が近い場合は、速り始めるほうが安全なこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急車両の通行を邪魔しないよう、コインパーキングなどに移動し、ラジオなどで情報収集する。 ● 車を置いて避難する場合は、緊急移動に備えて鍵はつけたまま、ドアロックは解除する。車内に連絡先を残しておく。
<p>まち中</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビルや建物のそばから離れる。 ● バッグや上着などで頭を守る、その際に手首は内側に保護する。 <div data-bbox="1713 619 1982 1324" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「避難場所」と「避難所」</p> <p>一般的に、避難場所は、緊急に命を守るための場所です。一方、避難所は、住宅を失った場合に一定の期間、避難生活をする場所で、小中学校やまちづくりセンターなどの公共施設が該当します。</p>  </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園やグラウンド、空地などに移動する。施設の場合はスタッフの指示に従う。

避難するときは、安全を確認して非常用持ち出し品を持って避難しましょう。また、近所の方にも積極的に声をかけて安否を確認しましょう。自治会長さんにも連絡しましょう。